

●●● “地球” を大切にする ●●●

紙資源の削減と“四国の森” 社有林の取り組み

お届けする商品に“ぴったり”の梱包を！

限りある森林資源の有効活用と、自ら育てる取り組み

“紙”を使っている企業だからこそ

スマートフォンの急速な普及などもあって、当社における、お客様のインターネット利用は引き続き伸長しており、アナログ媒体からデジタル媒体へのシフトは着実に進んでいます。とは言え、カタログやチラシ、商品発送用のダンボールや紙袋など、当社が事業活動を行う上において紙の使用は不可欠であり、今後も切っても切れない関係にあります。そのため、当社の事業活動が環境へ及ぼす影響を正しく認識し、例えば、お客様に対してオンラインショップの利用を促進することでカタログ発行部数の削減を図ったり、社内におけるペーパーレス化を推進するなど、積極的に紙資源の節減に取り組んでいます。また、商品配送用のダンボール箱や紙袋についても、過剰な梱包にならないよう、30種類以上を取り揃えて、商品に対して無駄のない適切なサイズを選択するようにしており、配送中における商品への衝撃を軽減するための緩衝材も、空気を充填したラミネートフィルムや再生紙100%の資材を使用することで、省資源化に取り組んでいます。



↑ 色々なサイズのダンボールをそろえた商品の箱詰め作業の現場



↑ 当社が育てている“四国の森”にある榎（けやき）の大木

“四国の森”を育てています

森は木を育て、土壌をつくり、水を蓄えるだけでなく、土砂災害を防いでくれたり、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を抑える働きを果たしていますが、間伐や植林など、人が手を掛けなければ森は育ちません。日本の面積の約3分の2は森で覆われており、かつては林業が盛んでしたが、近年は割安な輸入木材に押されて低迷し、間伐や植林が行われなくなった事で循環環境が崩れ、森は危機に瀕しています。そんな中、当社では四国・愛媛県の久万高原町・砥部町・西予市に保有する約338万㎡（東京ドーム72個分）の山林においてスギ、ヒノキ、マツなどを育てており、西暦2100年までの植林に関する「中長期計画」を推進しています。これら山林整備を通じて、山林の有する治山・治水機能や水資源の涵養機能等の活性化を図り、「自然環境の保全」や「地域社会の安全」にも貢献しています。